



## 「交流と連携でつくる、 多彩な産業がキラリと光るまち あげお」を目指して

近年、地域を取り巻く環境は、少子高齢化や人口減少、東日本大震災とこれに伴う原発事故の影響、景気の先行き不透明感など、厳しい状況におかれています。

上尾市においても、生産年齢人口の減少に伴う税収入の減少やグローバル経済の進展に伴う地域産業の空洞化など、上尾市の行財政運営や行政サービスのあり方に大きな影響を及ぼすことが懸念されています。

このような状況をふまえて、「第5次上尾市総合計画（平成23年度～32年度）」に位置づけた「たくましい都市活力づくり」のさらなる推進が必要であるとして、「上尾市産業振興ビジョン」を策定いたしました。

上尾市には、

- ◇生産者と消費者との密着性を生かした農業
- ◇地域コミュニティと市民生活に欠かせない商業
- ◇上尾市の経済をけん引する重要な役割を持つ工業
- ◇四季折々の上尾市の表情を楽しめる観光

など、多彩な産業が存在しています。

また、市内産業を支える担い手として、22万人を超える市民の方々があります。

上尾市が都市間競争の中で輝き続けるためには、今ある多彩な産業を強化していくとともに、時代の流れに応じた新しい産業のあり方の検討など、市や産業関連団体、事業者はもとより、市民の方々も一体となって、継続的に取り組んでいかななくてはなりません。

「上尾で事業をして良かった」「上尾に住んで良かった」と皆さんが思えるよう、皆さんと一緒に、産業振興を進めていきたいと考えています。

結びに、上尾市産業振興ビジョンの策定にあたり、慎重な議論と貴重なご意見をいただきました策定委員の皆様をはじめとする関係者の方々には、心から御礼を申し上げます。今後とも、産業振興施策推進に向けて、より一層のご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

平成26年3月

上尾市長

島村 豊



## 目 次

<b>序章</b>	産業振興ビジョン策定の趣旨など	1
	(1) 産業振興ビジョン策定の趣旨	1
	(2) 産業振興ビジョンにおける「産業」の定義	1
	(3) 産業振興ビジョンの位置づけ	2
	(4) 産業振興ビジョンの計画期間	3
	(5) 産業振興ビジョンの策定方法	3
<b>第1章</b>	産業振興の意義と重要性	5
1	本市を取り巻く社会環境の変化	5
	(1) 人口構造	5
	(2) 就業と雇用動向	6
	(3) 税収の推移	7
2	産業振興の重要性	8
	(1) 人口減少社会における産業振興の重要性	8
	(2) 地域内及び地域外との経済連携による産業振興の重要性	8
	(3) 都市の機能としての産業振興の重要性	8
<b>第2章</b>	本市の産業構造の現状と課題	9
1	本市の経済基盤・産業構造の現状	9
	(1) 本市の産業構造	9
	(2) 農業	10
	(3) 商業	14
	(4) 工業	17
	(5) 観光	20
2	本市の産業振興に係る課題	21
	(1) 産業全般に関する課題	21
	(2) 農業に関する課題	21
	(3) 商業に関する課題	22
	(4) 工業に関する課題	23
	(5) 観光に関する課題	23
<b>第3章</b>	産業における将来像と基本方針	25
1	産業における将来像	25
2	産業振興の基本方針	25
3	各産業分野の目指すべき姿	26

<b>第4章</b>	産業振興ビジョンの実現に向けて	27
1	関係者の役割	27
2	(仮)産業振興会議の設置	28
<b>第5章</b>	施策の体系と事業展開	29
1	施策の体系	29
2	本ビジョンにおける重点事業	30
3	施策の展開	33
	基本方針1 既存の産業のバージョンアップ	33
	(1) 経営・技術支援	33
	(2) 後継者の育成	35
	(3) 起業・新規事業者支援	37
	(4) 振興基盤の整備	39
	基本方針2 新たな交流・連携の推進	43
	(1) 多様な交流・連携基盤の整備と強化	43
	(2) 連携による新たな事業展開	45
	(3) 市民・地域との交流・連携	49
	基本方針3 ブランド化の推進	52
	(1) 新たな魅力や地域資源の発掘・開発	52
	(2) 普及・ブランド化の促進	54
<b>第6章</b>	スタートアップ事業	57
(1)	産業振興推進事業	57
(2)	中小企業サポート事業	58
(3)	農商工観ポータルサイト構築事業	58
(4)	体験農園推進事業	59
<b>むすびに</b>		61
<b>資料</b>		63
1	上尾市産業振興ビジョン検討の経過	63
2	上尾市産業振興ビジョン名簿	67

# 序章

## 産業振興ビジョン策定の趣旨など

### (1) 産業振興ビジョン策定の趣旨

本市の産業の歴史をみると、江戸時代には上尾地区が中山道の宿場町として、平方地区が荒川舟運の要衝として、原市地区が市場町として、その他の地域が農村地域として発展してきました。

その後、明治時代に高崎線の開通と上尾駅の設置により、市街地形成が進むとともに、昭和の時代には、他都市に先んじて工業団地の造成と企業誘致を図り、多くの精密金属加工業や製造業の事業所が立地し、工業都市としての下地が作られました。

昭和40年代以降は、都心に近く、交通の利便性が良いことから、団地や住宅地の開発が行われ、人口が急増しました。これに伴い、多くの商店街の形成や大型店の出店が相次ぎ、生活利便性の向上から人口の増加が進み、住宅都市へと変化してきました。

現在では、長引く景気低迷の影響を受け、廃業や新興国企業との競争の激化、郊外型大型ショッピングセンターの進出など、多くの市内事業者は厳しい経営状況を余儀なくされています。

平成11年に改正された「中小企業基本法」では、中小企業は「日本経済の活力の維持及び強化に重要な役割を持つ」と位置づけ、国や地方公共団体は支援施策を実施する責務を負うとされています。

また、平成25年に改正された同法では、中小企業のうち8割を超える小規模企業を「地域経済の安定と地域住民の生活の向上、地域住民の交流促進、さらに将来における日本経済の発展に寄与する」と位置づけ、小規模企業の成長や発展段階に応じた支援施策を進めることが必要であるとされています。

他方、農業についても、農業・農村の所得倍増を目指す取り組みや農林水産物・食品のブランド化や高付加価値化の推進が求められるようになってきています。

このような状況から、本市では、事業者、行政、関連団体、国・県などの支援機関及び市民が連携して、産業振興のための取り組みを推進していくことの緊急性と重要性を強く認識しています。

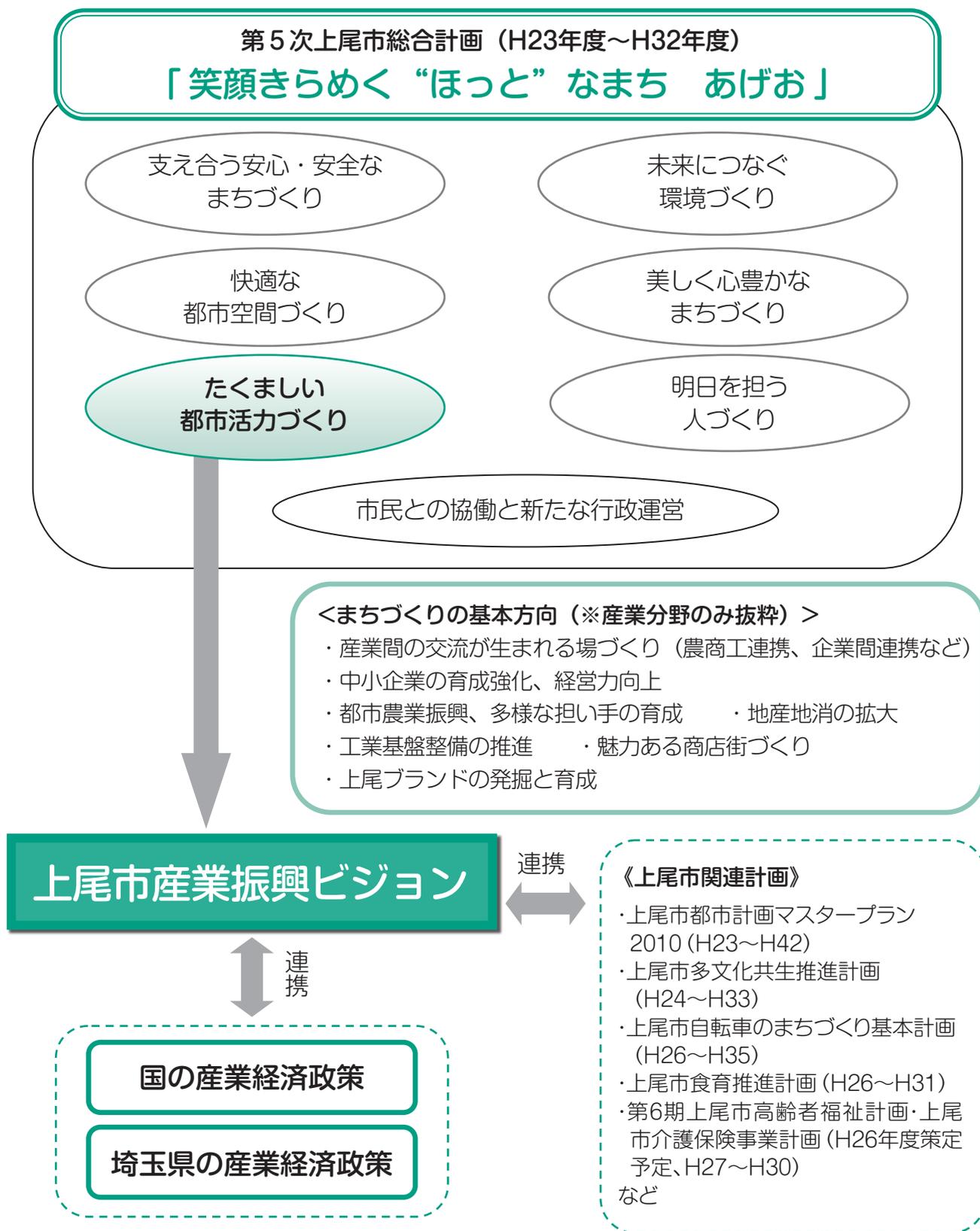
本ビジョンは、本市産業の現状から導き出された課題の解決に向けて、産業振興の将来像と方向性を定め、これらに基づき、地域経済の安定化や産業競争力の強化、新たなまちの魅力の創出などを図ることを目的としています。

### (2) 産業振興ビジョンにおける「産業」の定義

本ビジョンでは、産業の範囲を広くとらえ、農業、商業、工業、観光とそれに関連する産業分野をすべて対象としています。

### (3) 産業振興ビジョンの位置づけ

本ビジョンは、「第5次上尾市総合計画」におけるまちづくりの基本方向「たくましい都市活力づくり」の実現に向けた、産業振興における個別ビジョンとして策定するものです。



#### (4) 産業振興ビジョンの計画期間

本ビジョンが想定する計画期間は、特に定めていませんが、概ね10年間を目途に、刻一刻と変化を続ける流動的な社会経済状況の中において、不変とするべき本市の産業振興における将来像や基本方針、進むべき方向性を示すものです。

しかし、社会経済環境などの変化により、本ビジョンに示した将来像や施策の進捗状況などが著しく変更となるおそれが生じた場合には、新たなビジョンを策定するものとします。

#### (5) 産業振興ビジョンの策定方法

本ビジョンの策定にあたっては、学識経験者や産業関係者、公募市民、行政などで構成する「策定委員会」と、中堅・若手産業関係者及び市職員を中心とした「作業部会」を設置し、幅広い視野のもとで検討を行うとともに、パブリックコメント（市民意見公募）などを通じて策定するものです。

